

肝内結石症画像アトラス

厚生労働省難治性疾患克服研究事業
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班編集

肝内結石症画像アトラス

厚生労働省難治性疾患克服研究事業
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班編集

厚生労働省難治性疾患克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班

研究代表者：坪内博仁 鹿児島市立病院

肝内結石症分科会長：中沼安二 金沢大学大学院医学系研究科 形態機能病理学

発癌予知(画像診断)ワーキンググループ

グループ長：佐田尚宏 自治医科大学 消化器・一般外科

肝内結石症画像アトラス作業部会

- ☐ 佐田 尚宏 自治医科大学 消化器・一般外科
- ☐ 笹沼 英紀 自治医科大学 消化器・一般外科
- ☐ 森 俊幸 杏林大学医学部 外科
- ☐ 海野 倫明 東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学
- ☐ 柳野 正人 名古屋大学大学院医学研究科 腫瘍外科
- ☐ 田妻 進 広島大学病院 総合内科・総合診療科
- ☐ 露口 利夫 千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学
- ☐ 内山 和久 大阪医科大学 一般・消化器外科

はじめに

肝内結石症は、1978年に発足した厚生労働科学研究費補助金研究班である肝内胆管障害研究班により本格的な研究が始まった。2008年度から肝内結石症の調査研究は、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班」内の肝内結石症分科会に引き継がれ、診断、研究がさらに展開して来た。発足当時は、肝内結石症の診断、病型分類、病態の解析および病因の追求が主な研究テーマであった。主に研究班の班員の先生方の努力により、感染症など、肝内結石症に伴う種々の合併症に対する治療法が解決されつつ中で、肝内結石症に合併する胆管癌が肝内結石症の重要な生命予後因子として、注目されてきた。胆管癌のモデル胆道疾患として、欧米では原発性硬化性胆管炎が有名で代表的であるが、我が国では原発性硬化性胆管炎は稀であり、肝内結石症の胆管癌の合併率は施設により若干の違いはあるが5%前後とされ、肝内結石症が胆管癌発生のモデル疾患として従来から注目され、本研究班から多くの研究成果が発表されてきた。

肝内結石症に合併する胆管癌の診断は、肝内結石症の剖検例や外科切除材料では、病理学的診断は困難ではないが、術前あるいは生前に胆管癌の正確な診断を行うことは困難なことが多く、また多くの誤診例も知られている。このため、肝内結石症での胆管癌診断の画像診断ワーキング・グループが設置され、自治医科大学 消化器・一般外科 佐田 尚宏教授を中心に、全国集計や具体的な症例の解析が試みられてきた。今回、佐田教授が中心となり、肝内結石症から発生する胆管癌の画像を中心とした調査研究結果と代表的な症例をまとめた単行本“肝内結石症画像アトラス”が上梓された。特に、提示症例では、画像と病理像がセットになり、診断一致例、不一致例が詳細に記載されて、非常に実用的であり、また示唆に富む症例が多い。診断困難例も含まれている。

本書は、我が国での肝内結石症調査研究の成果の1つであり、多施設研究の成果でもある。本書が胆道専門の臨床家に用いられることにより、肝内結石症に合併する胆管癌の診断が進歩すれば、本研究班を組織し、また佐田教授を支援して来た我々の望外の喜びである。

平成 26 年 3 月

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班

研究代表者：坪内 博仁(鹿児島市立病院)

肝内結石症分科会長：中沼 安二(金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理学)

序 文

厚生省特定疾患の一つである肝内結石症は肝内胆管内腔に結石の形成を来す稀な疾患で、1978年、(当時)厚生省の肝内胆管障害研究班がその原因、病態の解明、治療法の確立を目指し調査研究を開始した。現在は、厚生労働省特定疾患難治性の肝胆道疾患調査研究班肝内結石症分科会として引き継がれ、本邦の肝内結石症の疫学調査、成因、診断、治療に関する最新の知見を国内外に発信している。

2002-2007年の難治性疾患克服事業「肝内結石症に関する調査研究班」において、2002-2004年の画像診断ワーキング・グループ(以下、WG)と2005-2007年の画像診断・病型分類WGの取り組みが、肝内結石症の診療ガイド(2011年9月発刊)で「肝内結石症の病型分類・画像診断指針2008」として報告された。この中で、肝内胆管癌合併肝内結石症の早期発見に向けた画像診断は、今後の重要な検討課題として挙げられたが、その具体的な対策については触れられていない。

2008年度から肝内結石症の調査研究は、厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班」内の肝内結石症分科会に引き継がれた。同分科会では、2008-2010年画像診断WGが組織され、1990-2009年の20年間を対象とした肝内結石に合併する肝内胆管癌のProfile調査、ならびに肝内胆管癌症例に対するFDG-PET、Diffusion MRIの診断能に焦点を当てたProfile調査を行った。この結果、①肝内胆管癌合併肝内結石症の過半数(57%)がStage IVbで発見され予後不良であること、②早期治療には腫瘍指摘以前の発見が必要であること、③従来型の診断modality(ERC、PTC(S))は肝内胆管癌早期発見に有効ではないこと、④FDG-PET、Diffusion MRI、Perfusion CTなどの診断能は、現時点では実施例がごく少数のため十分に評価できないことが明らかになった。

2011-2013年肝内結石症分科会の発癌予知WGでは、肝内結石症における肝内胆管癌合併症例早期診断能向上には、最新画像診断を含めた様々なmodalityの画像を1例1例詳細に検討することが現状唯一実臨床に寄与する鑑別診断情報を提供できる方法と考え、肝内胆管癌合併肝内結石症および肝内胆管癌非合併肝内結石症の画像アトラスを作成することとした。個々の症例を詳細に検討することが、実臨床においてまず肝内胆管癌合併を疑うことに直結すると確診する。

最後に貴重な症例を提供頂いた共同研究者の皆様へ深謝します。

平成 26 年 1 月

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班

自治医科大学 消化器・一般外科 佐田 尚宏

笹沼 英紀

肝内結石症画像アトラス

発 行 日 2014 年 3 月

発 行 者 厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班

編集責任者 研究代表者 坪内 博仁

連 絡 先 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
健康科学専攻人間環境学講座
消化器疾患・生活習慣病学

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘八丁目 35 番 1 号
TEL 099-275-5326 / FAX 099-264-3504